

2020 年度 環境経営レポート

(対象期間：2020 年 1 月～12 月)



認証番号 0000724

YASDA

YASDA PRECISION TOOLS K.K.

目次

■計画の策定(Plan)

1	組織の概要	1
2	対象範囲	1
3	環境経営方針	2
4	環境経営目標	3
5	環境経営計画及び達成状況	5

■計画の実施(Do)

6	環境経営計画に基づき実施した取り組み内容	6
---	----------------------	---

■取組状況の確認及び評価(Check)

7	環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価（総量）と 次年度の取り組み	7
8	環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価（原単位）と 次年度の取り組み	9
9	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果、並びに違反、訴訟等の有無	13

■全体の評価と見直し(Act)

10	代表者による全体の評価と見直し・指示	14
----	--------------------	----

1 組織の概要

(1) 名称及び代表者

安田工業株式会社

代表取締役 安田 拓人

(2) 所在地

本社	岡山県浅口郡里庄町浜中 1160
第二工場	岡山県浅口郡里庄町浜中 1128-3
第三工場	岡山県浅口郡里庄町新庄 5899
仙台営業所	仙台市青葉区上杉 5-1-1
関東営業所	さいたま市北区土呂町 1-12-2
名古屋営業所	名古屋市東区東桜 2-9-34
長野営業所	松本市城西 1-2-19
大阪営業所	大阪市北区梅田 1-3-1-1000

(3) 事業の概要

工作機械製造販売

産業機械製造

(4) 事業規模

	本社	第二工場	第三工場	営業所
従業員数	275 名	30 名	59 名	27 名
延べ床面積	21,267 m ²	7,069 m ²	7,759 m ²	411 m ²

(5) 事業年度

4月～3月

2 対象範囲

登録組織名 : 安田工業株式会社

活動対象範囲 : 本社工場

第二工場

第三工場

本社以外の営業所（仙台、関東、名古屋、長野、大阪）

活動 : 工作機械の開発・設計・製造・販売・サービス
産業機械の製造

3 環境経営方針

(1) 環境理念

安田工業株式会社は、地球環境を健全な状態で次世代へ引き継ぐために、ものづくりの全ての過程において、資源エネルギーの消費、発生する廃棄物、特定化学物質の使用を削減することに企業全体で努めてまいります。

自社製品についても、高品質、高機能、高性能かつ地球環境に優しい製品を開発・提供することに努め、お客様に高効率で高品位な生産を行っていただくことにより、二酸化炭素の排出量や廃棄物の削減につなげていきます。

常に環境への影響に配慮した「ものづくり」を推奨していくことで、社会から地域から信頼される企業を目指していきます。

地球環境問題を経営上の重要な課題の一つとして認識し、自らの製品・サービスを含む全ての事業活動のあらゆる面を通じて、環境マネジメントシステムの継続的改善を図り、環境と調和した維持可能な循環型社会を目指した活動を自主的・積極的に推進していき、社会の発展に貢献していきます。

(2) 活動指針

1. 環境関連法規制を遵守していきます
2. 生産効率の向上と省エネルギーを推進して、二酸化炭素排出量の削減に努めます
3. 製品品質の向上と最適な生産を推進して、廃棄物の削減に努めます
4. 再資源化を推進して省資源に努めます
5. 特定化学物質の使用量を把握して削減に努めます
6. 環境を配慮した製品の開発に努め、顧客に高効率で高品位な生産を行っていただける機械とソリューションを提供していきます
7. 環境マネジメントシステムの継続的改善を行います
8. 環境への取組みを全従業員に周知します
9. 環境経営レポートを作成して公表します

制定日：2019年1月11日

代表取締役

安田 拓人

4 環境経営目標

(1) 本社工場、第二工場、第三工場

* 原単位：売上高

二酸化炭素排出係数：0.677kg-CO₂/kWh（中国電力2017年調整後係数）

・二酸化炭素排出量の原単位目標

		2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2021年 目標	2024年 中期目標
電力	kg-CO ₂ /億円	68,113	67,433	66,758	66,091	64,128
ガソリン・軽油		515	509	504	499	484
二酸化炭素排出量 合計		68,628	67,942	67,262	67,590	64,612

・廃棄物の原単位目標

		2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2021年 目標	2024年 中期目標
一般廃棄物 (焼却量+埋立量)	トン /億円	0.160	0.158	0.157	0.155	0.151
産業廃棄物 (焼却量+埋立量)		0.241	0.239	0.236	0.234	0.227

・廃棄物の再資源化率目標

		2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2021年 目標	2024年 中期目標
再資源化率	%	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0

・水使用量の原単位目標

		2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標	2021年 目標	2024年 中期目標
水使用量	m ³ /億円	126	125	54.2	53.6	52.0

- ・化学物質使用量削減、自らが生産する製品の目標

化学物質使用量削減については使用量の制限が自ら行えない、また自らが生産する製品に関しては数量化し辛いいため目標値を設定せず、環境活動計画の中で管理し取り組んでいく

(2) 本社以外の営業所

- * 原単位：電力・廃棄物は営業所の人数

ガソリンは車を運転する人数

二酸化炭素排出係数：0.677kg-CO₂/kWh（中国電力 2017 年調整後係数）

- ・二酸化炭素排出量の原単位目標

		2018 年 目標	2019 年 目標	2020 年 目標	2021 年 目標	2024 年 中期目標
電力	kg-CO ₂ /人数	1,197	1,184	1,173	1,161	1,126
ガソリン・軽油		5,669	5,613	5,556	5,501	5,338
二酸化炭素排出量 合計		6,866	6,797	6,729	6,662	6,464

- ・廃棄物の原単位目標

		2018 年 目標	2019 年 目標	2020 年 目標	2021 年 目標	2024 年 中期目標
一般廃棄物 (焼却量+埋立量)	Kg /人数	55.2	54.7	54.1	53.6	52.0

- ・節水の原単位の目標

営業所の場合は、水道料金がオフィスの賃貸料に含まれている場合が多く、そのため使用量を把握することが不可能である

よって、節水の項目での目標値を持つ事が出来ない

5 環境経営計画及び達成状況

(1) 二酸化炭素排出量の削減

計画	担当部署	実施時期	達成状況
① 作業効率の向上 ・生産及び業務を改善して効率を上げる	全部署	中計計画	○
② 空調 ・設定温度の徹底（夏 27℃、冬 22℃）	総務、技術部 製造部、産機部	随時	○
③ 照明 ・不要時の消灯、部分照明	全部署	随時	○
④ コンプレッサ ・エア漏れの処置	製造部	随時	△
⑤ 動力 ・使用していない設備機械・生産機械の電源を切る ・OA 機器の省エネモード設定	機械課、組立課 全部署	随時 随時	○ ○

(2) 廃棄物排出量の削減

計画	担当部署	実施時期	達成状況
①不良品の削減 ・不良を削減して廃棄物を減らす	技術部、製造部	業務推進計画	○
②分別の徹底 ・分別ボックスを設置して再資源化率を上げる ・古紙のリサイクル化	全部署	随時 随時	○ ○
③コピー用紙の削減 ・裏紙利用、両面印刷 ・集約コピー	全部署	随時	○ △

(3) 化学物質使用量の削減

計画	担当部署	実施時期	達成状況
①使用量の把握 ・使用量を把握して管理する	生産技術課	毎月	○
②代替品の採用 ・代替品により化学物質使用量を減らす	生産技術課	随時	○

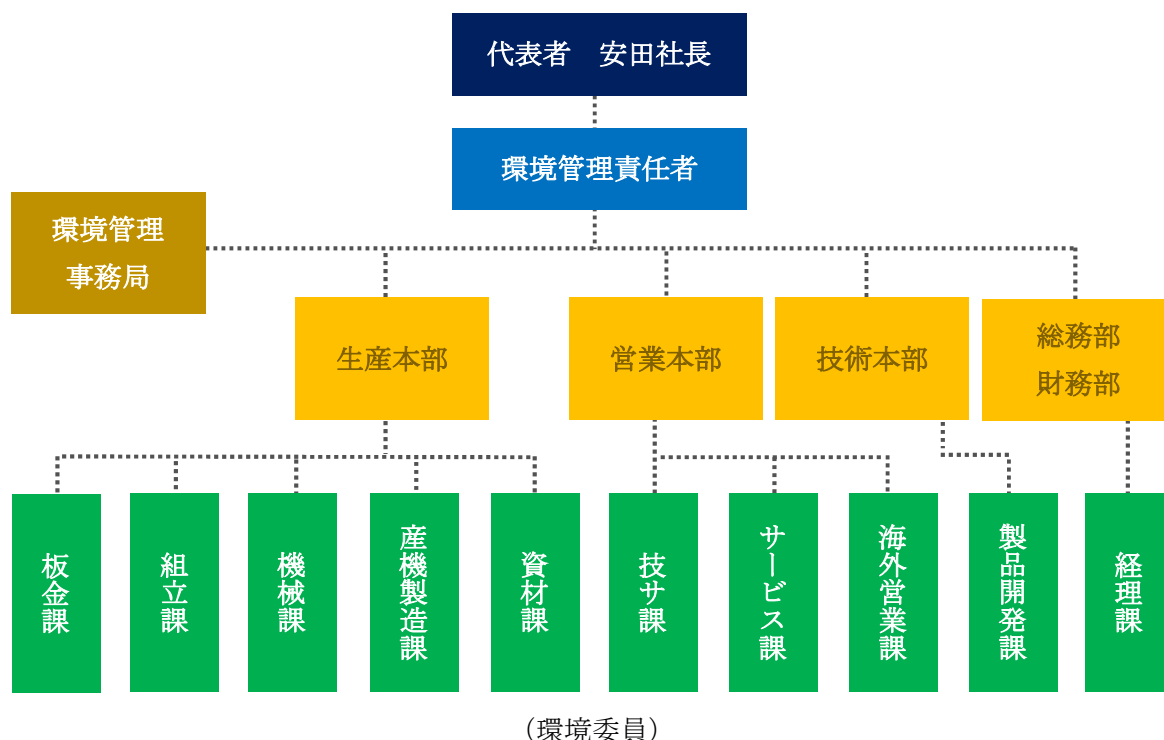
(4) 製品及びサービス

計画	担当部署	実施時期	達成状況
①製品開発 ・高度化、高品位化、長寿命化、小型化、軽量化 部品点数最小化を考慮	技術部	随時	○ ○
②サービス作業 ・正確かつ効率の良い作業	サービス課	随時	○

6 環境経営計画に基づき実施した取り組み内容

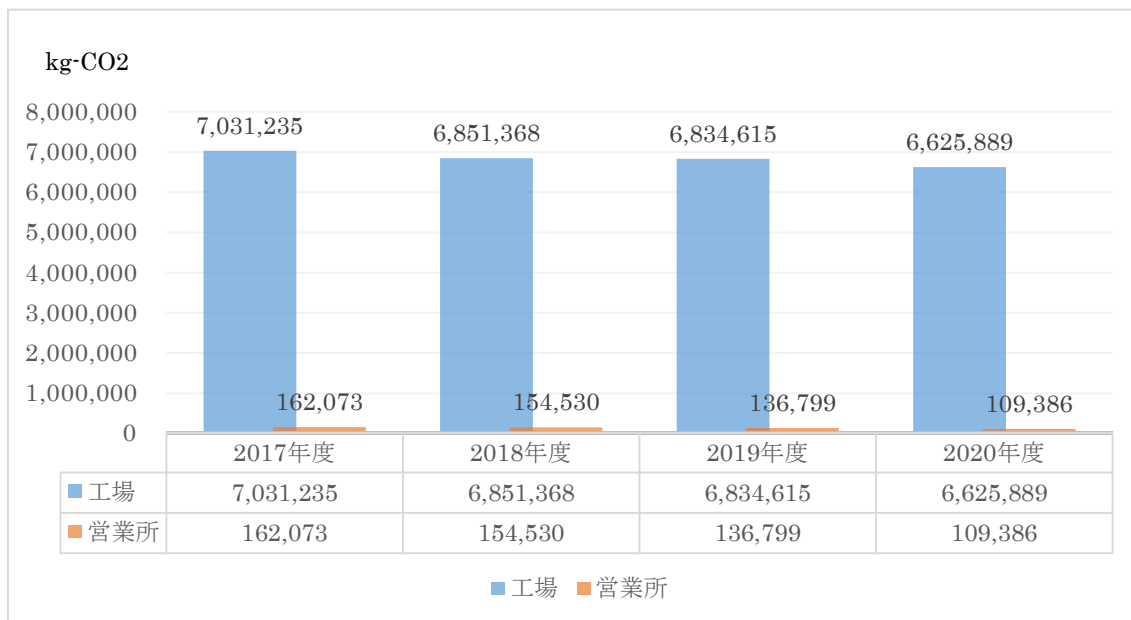
(1) 実施体制

環境委員会組織図



7 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価（総量）と次年度の取り組み

(1) 二酸化炭素総排出量



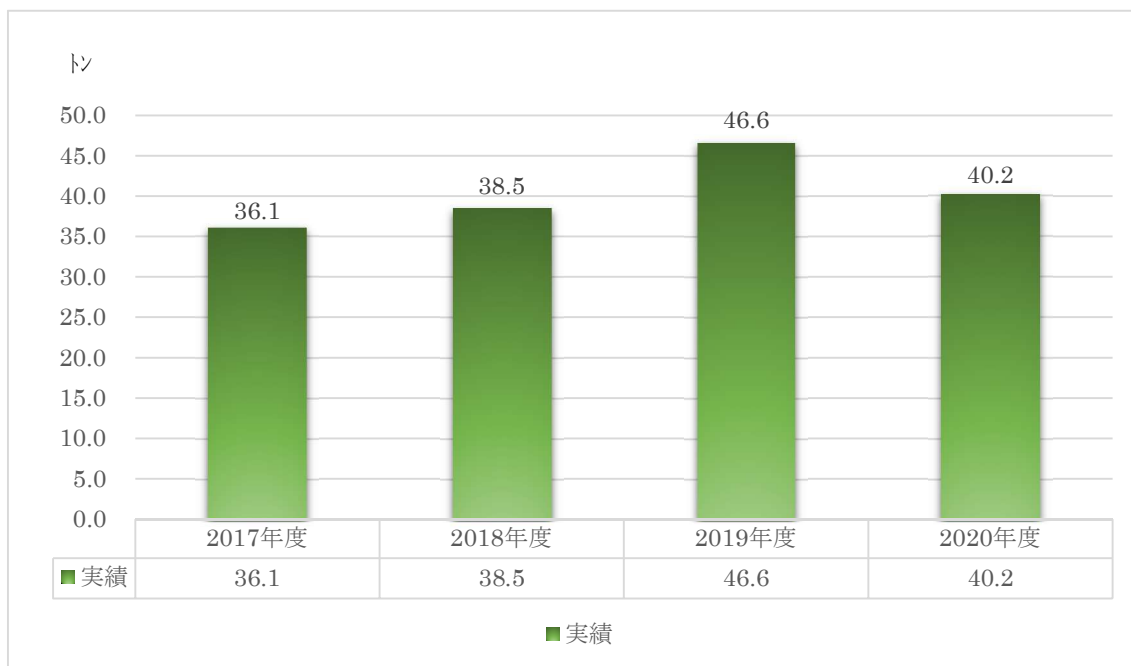
二酸化炭素排出量は 2017 年度から操業度が上がっているにもかかわらず徐々に削減できている。空調や照明など大掛かりにハード面の更新をした結果と判断している。次年度は運用面による削減に取り組んでいく。

(2) 一般廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）総排出量



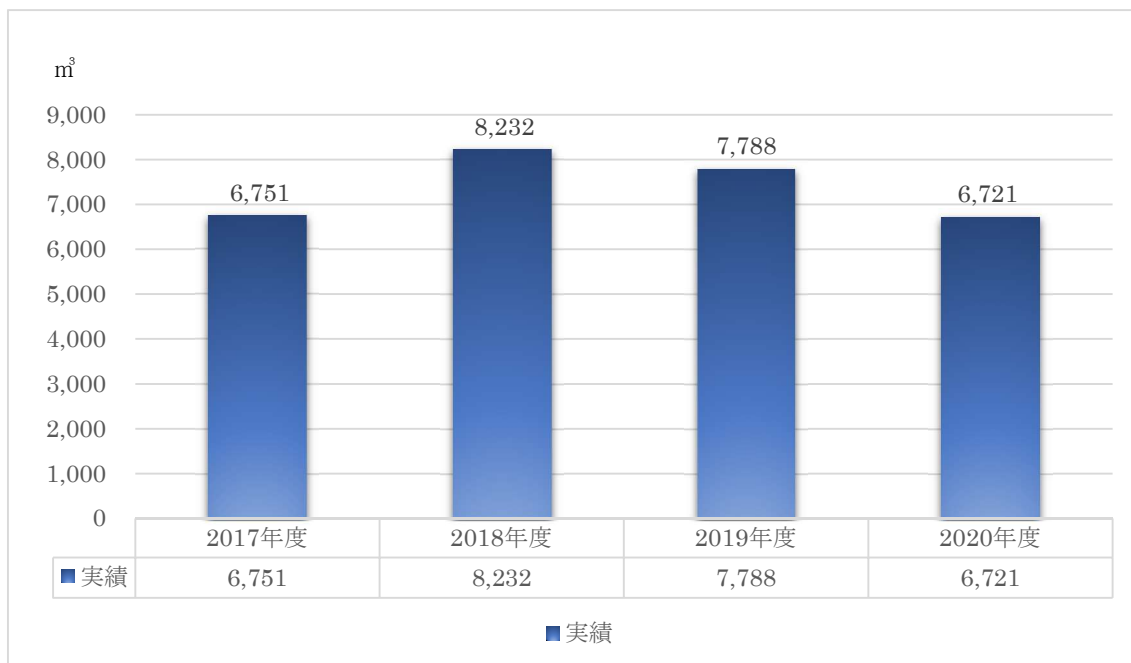
2019 年度から増加している。分別を徹底して排出量削減に取り組んでいく。

(3) 産業廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）総排出量



分別を徹底して排出量削減に取り組んでいく。

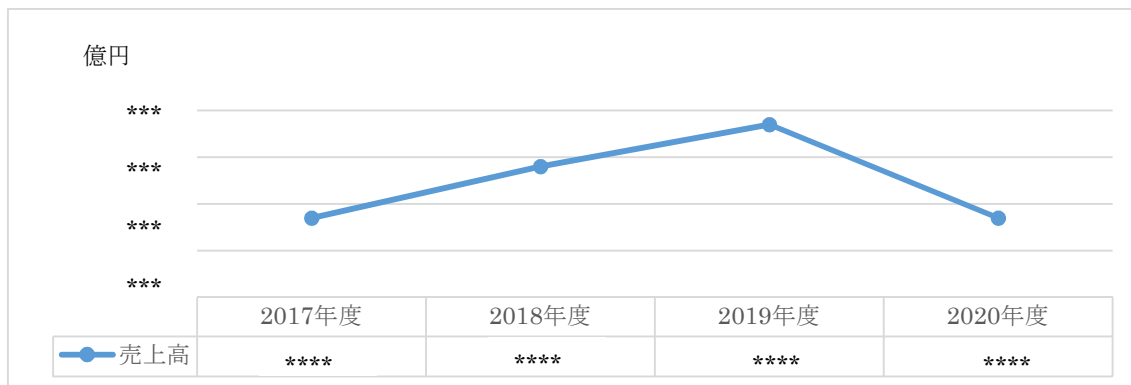
(4) 水使用量の総量



操業度により増減はあるが、安定した使用量であると判断している。今後も継続していく。

8 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価（原単位）と次年度の取り組み

(1) 工場原単位：売上高



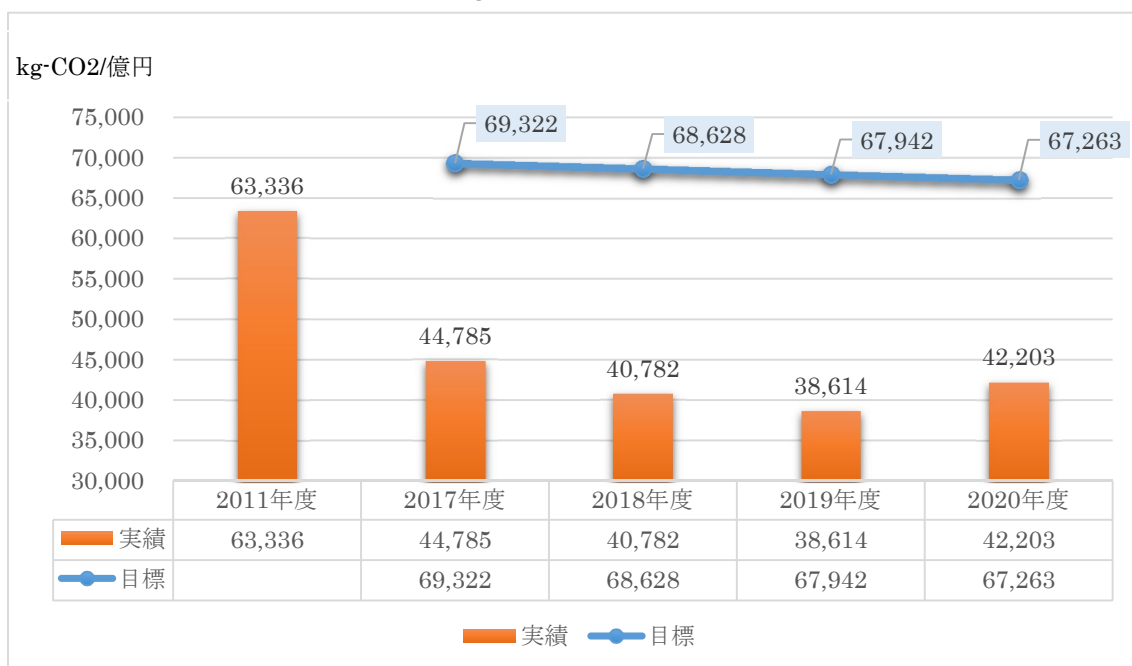
営業所原単位：営業所の人数（電力使用量と廃棄物排出量）

車を運転する人数（ガソリン使用量）

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
電力・廃棄物	営業所の人数	31	27	31	26
ガソリン	車を運転する人数	27	23	27	22

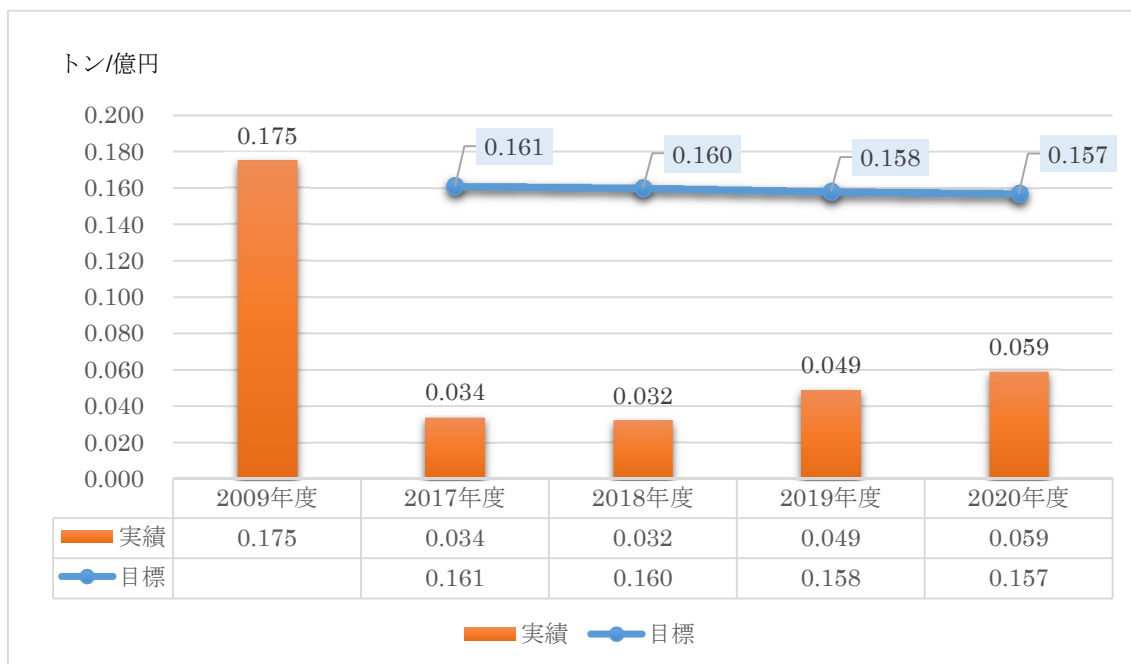
(2) 二酸化炭素排出量の原単位実績

二酸化炭素排出係数：0.677kg-CO₂/kWh（中国電力2017年調整後係数）



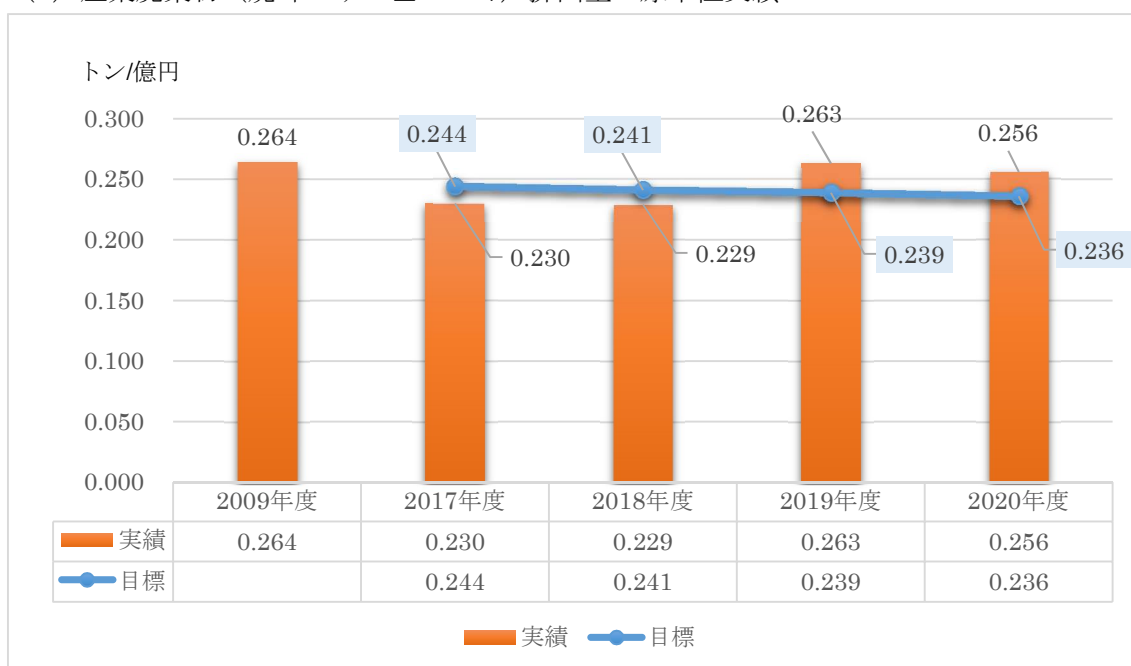
総量は減少したが原単位である売上高が減少したために数値が悪化した。今後は運用面で取り組みを強化していく。

(3) 一般廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）排出量の原単位実績



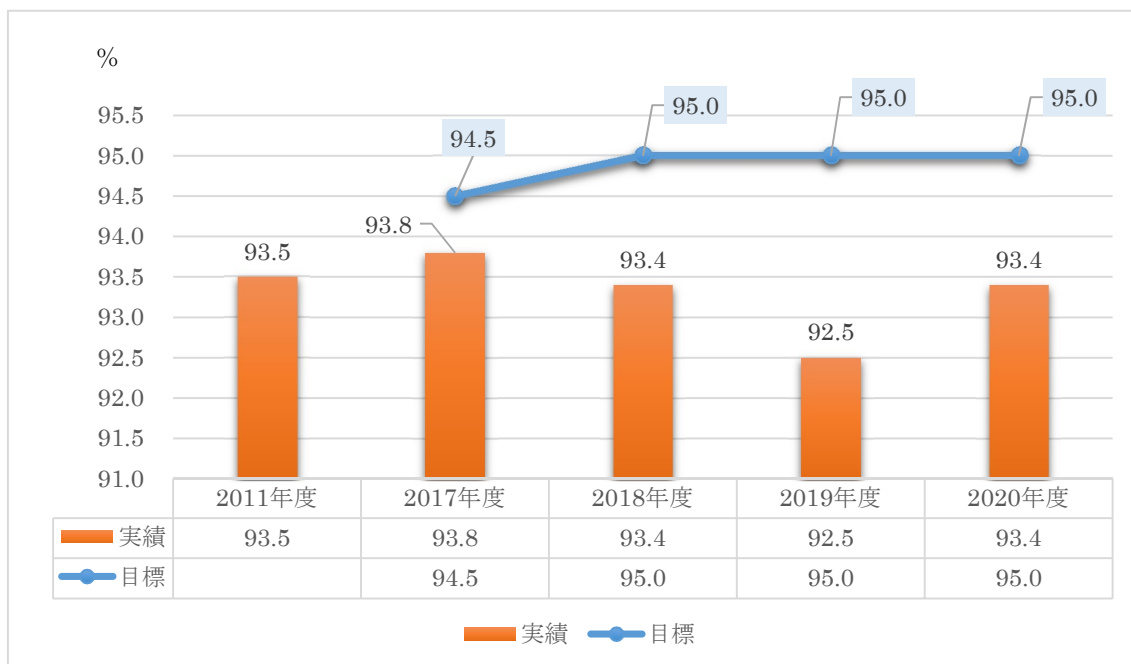
分別を徹底して焼却ごみの総量削減に努めていく。

(4) 産業廃棄物（焼却ごみ+埋立ゴミ）排出量の原単位実績



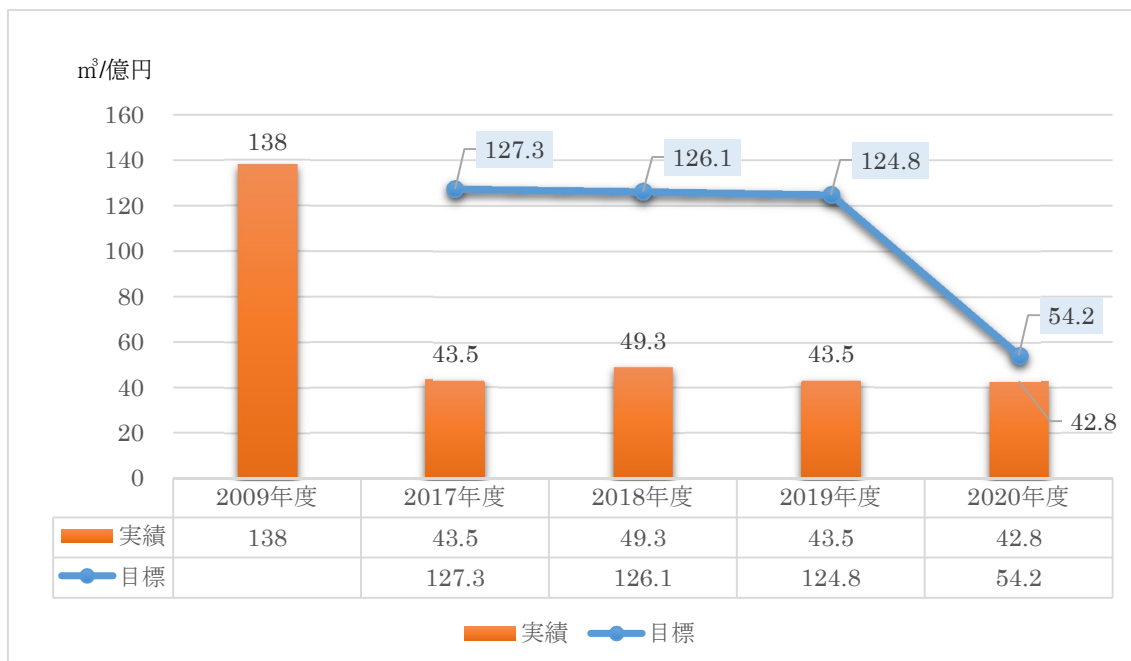
前年度に比べて総量は削減したが、原単位である売上高が減少したために数値があまり改善されなかった。今後も分別の徹底を行っていく。

(5) 再資源化率の実績



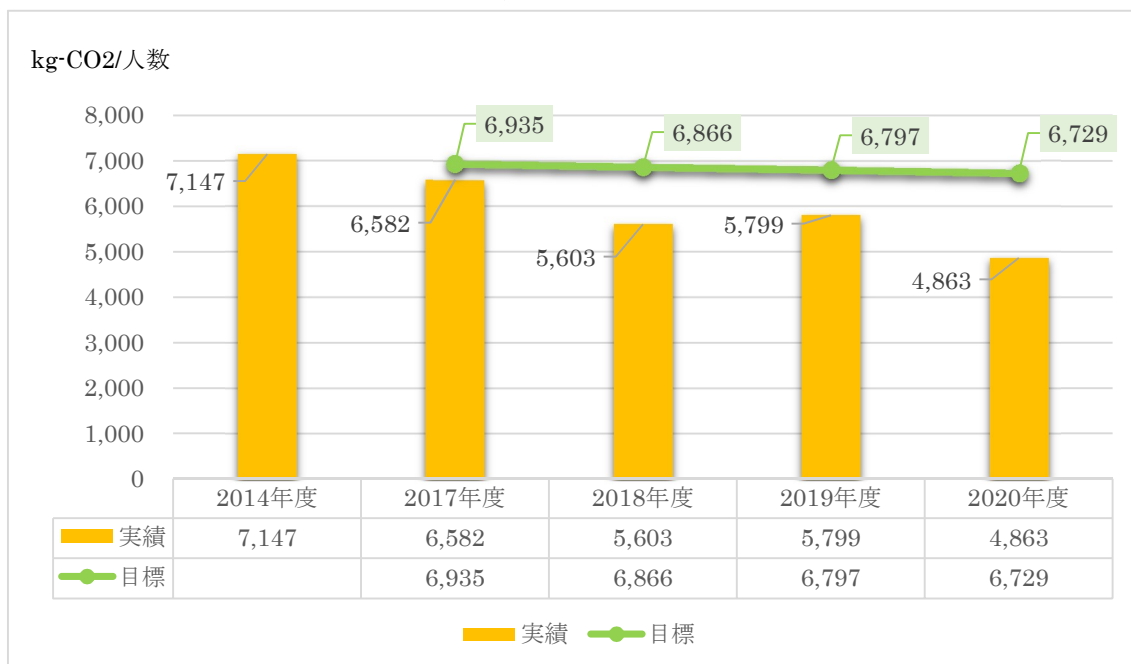
2018年度から数値が改善されていない。今後は廃棄物の内容を把握して削減に向けて取り組みを行っていく。

(6) 水使用量の原単位実績



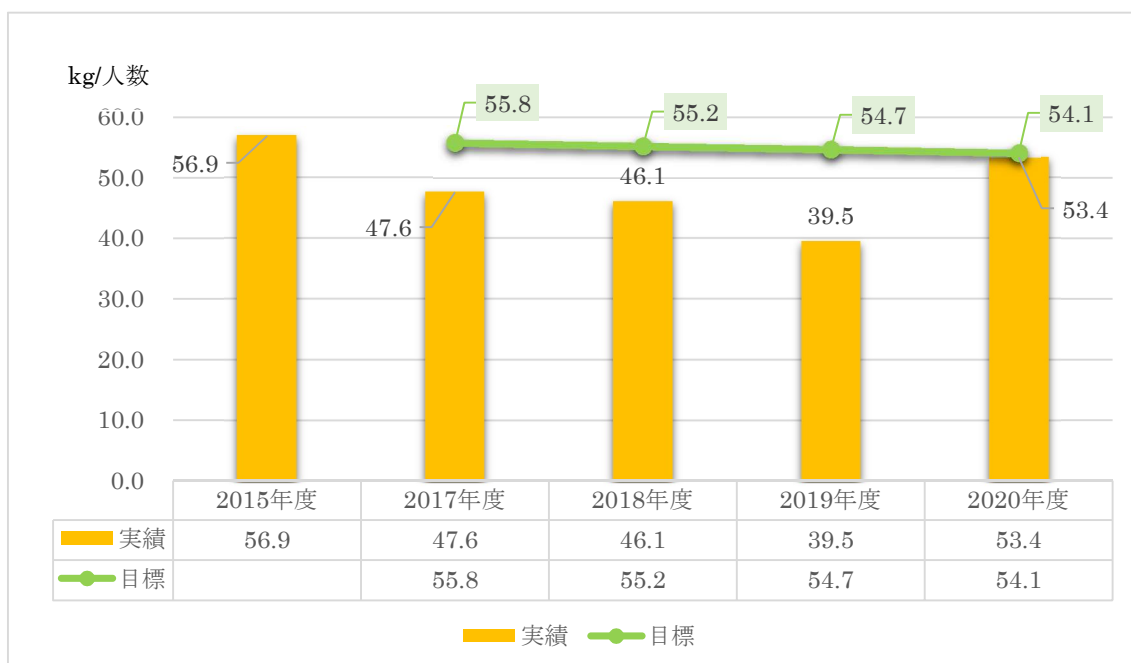
2019年度実績を基に目標を上方修正した。無駄な使用を抑えて使用量削減に取り組んでいく。

(7) 営業所の二酸化炭素排出量の原単位実績



客先訪問の規制とテレワーク等により、車の燃料及び使用電力量が減少したために数値が改善されたと判断している。エコドライブと節電に取り組んでいく。

(8) 営業所の廃棄物排出量の原単位実績



一部の営業所の大掛かりな整理を行ったことにより排出量が増加したが目標は達成されている。今後も排出量削減に取り組んでいく。

9 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価結果、並びに違反、訴訟などの有無

法規制等の名称	要求事項	遵守評価結果
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・収集運搬・処理業者の許可の確認、契約 ・保管場所の掲示、飛散・浸透防止、衛生管理 ・マニフェストの交付・管理 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告 	適合
PRTR 法	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質使用量の把握 	適合
エネルギー使用合理化に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量の把握・管理、省エネ ・管理標準の整備 ・定期報告書・中長期計画書の提出 	適合
消防法	<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備、施設の点検 	適合
岡山県環境への負荷低減に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス排出削減報告書等の提出 	適合
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の点検 ・漏洩防止の措置、修理しないままの充填禁止 ・点検等の履歴の保存 	適合
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・特定施設設置届出・使用届出の提出 ・規制基準の遵守 	適合
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・特定施設設置届出・使用届出の提出 ・規制基準の遵守 	適合
労働安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質のリスクアセスメントの実施 	適合

上記表中の環境関連法規制等を遵守しています。尚、違反及び訴訟等はありません。

10 代表者による全体の評価と見直し・指示

2021.2.5

代表取締役 安田 拓人

2020年の日本の工作機械受注額は、2年連続の減少で、前年比▲26.7%の9,018億円となった。米中貿易摩擦や中国経済の低迷により工作機械需要が減少していたところに、新型コロナウイルス感染拡大による需要低迷の影響が加わり、国内外ともに減速し、10年ぶりの1兆円割れとなった。

当社における原単位評価に用いている売上高は、前年度比▲11%となったが、生産台数というと前半は前年度並みで後半少しブレーキを踏んだ結果、通期では前年比▲7%となり、生産量については微減であったために前年度同様に繁盛な状況であった。

とにかく新型コロナウイルス感染拡大による影響を様々な面で受けた一年となった。人との接触を避けるために顧客訪問に制限が発生して営業活動に支障が出たり、海外への渡航が困難になり様々な業務に支障が生じたり、大人数での会議ができなかったり、展示会が中止になったり行き辛かったり等と、多くの出来ないことが発生した。

しかし、いままでやっていなかったことが新たにできるようになった事もある。Webによる立会検査やWeb会議、テレワークなどの有効性を見出して前向きに捉えたいし、環境の変化に強い企業でありたい。

二酸化炭素の排出量は3年連続で減少傾向にある。これは空調や照明などのエネルギー消費機器を高効率なものに更新してきた効果が表れていると考える。2020年度はハード面の更新は行わなかったが、運用面での取り組みの結果であると評価している。この状況を継続していきたい。

一般廃棄物の排出量については絶対量が増加しており、更なる分別が必要であると判断している。産業廃棄物については昨年度比では減少しているが目標には達していない。これについては廃棄物の内容を把握して対処していく。再資源化率の数値は改善されているが目標は未達成なので、これも分別の徹底に取り組んでいく。

水使用量については2020年度から目標値を上方修正しており、その目標も達成している。絶対量も減少傾向にあり、この状況を継続していきたい。

各営業所においても目標を達成しており、この状態を維持管理していく。

実施体制である環境委員会の構成の変更は必要ない。但し異動等による人員の交代は適宜行う。

持続可能な循環型社会の構築及び地域社会に貢献していくために、また会社の社会的責任を果たすこと、地域社会からの信頼を継続して得られることを目的に、今後も全事業活動を通じて環境活動を推進していく。